

## 第7回町田市子どもの居場所づくり懇談会議事録（要旨）

日時	2009年2月20日 10:00～12:00
場所	町田市役所森野分庁舎4階第一・第二会議室
出席者	長野座長、脇副座長、藺田委員、宮島委員、近藤委員、盛永委員、舟山委員、福田委員、萩原委員、岩崎委員、安食委員、奥委員 オブザーバー 浅野子ども生活部長
傍聴者	1名

### 議題1 各地域会議の報告

事前配布していた「各地域の会議内容」をもとに、担当委員が報告を行う。

### 議題2 報告書（案）について

脇副座長より、地域会議の意見、意見募集で寄せられた市民意見を受けて、資料をもとに修正した部分の説明を行う。（別紙1参照）

P22の修正点以外には特に意見は出ず了承。

#### 【P22の修正について（別紙2参照）】

- ・P22の文章を削除したが、大切な意見だと思うので残して欲しいとの意見が出された。
- ・堺地域担当委員から、「堺地域会議でも、堺地区だけではなく全市での傾向であるという認識を持っていると伝えたが、堺地域だけにこの記述が掲載されているので、この報告書を読む方は堺地域が特にこのような傾向が強い地域ととらえられてしまうので、削除して欲しいという強い要望があった」との説明があった。
- ・P22は案どおり削除する。しかし削除した文章の内容を、第一章に追加することとする。なお、修正文については、座長・副座長で調整する。

#### 【サブタイトルについて】

- ・事務局よりサブタイトル案として「子どもの声があふれるまちに」が提案され、全会一致で決定。

#### 【市長への報告書提出について】

- ・2月26日（木曜日）14時に報告書を市長へ提出する。
- ・都合のつく委員は13時50分までに市役所本庁舎3階秘書課前に集合する。

以上

町田市子どもの居場所づくり懇談会報告書（2009.2. 20 案）

## 主な変更点

以下の箇所を追加・削除しています。

本文の追加箇所には下線「〇〇〇」、削除箇所には二重取り消し線「~~〇〇〇~~」を引いてあります。

- ・「はじめに」と「おわりに」の追加
- ・ P 2 文章の追加
  - ※指摘「鶴川地域会議」  
外遊びの姿が消えた現状だけでなく背景も書き込んで欲しい。
- ・ P 4 文章の追加
  - ※指摘「市民から寄せられた意見」  
障害を持つ子どもの居場所についても検討して欲しい。
- ・ P 6 文章の追加
  - ※指摘「堺地域会議」  
行政の中の横の連携、協力体制の必要性を書き込んで欲しい。
- ・ P 8 文章の追加
  - ※指摘「第 6 回懇談会」  
総合型地域スポーツクラブについての記述を書き込む。
- ・ P 9 文章の追加
  - ※指摘「鶴川地域会議」「南地域会議」  
提言を受けての具体的な方策の実施スケジュールを明確にして欲しい。
- ・ P 17 文章の削除及び追加
  - ※指摘「市民から寄せられた意見」  
よくわからない表現になっているので修正してほしい。
- ・ P 22 文章の削除及び追加
  - ※指摘「堺地域会議」  
小山地区が大人同士のコミュニケーションのない地域という印象を与える表現は辞めて欲しい。  
⇒削除して、小山独自の活動である「見守り隊」や「リーダーズ」の記述を加える。
- ・ P 23 文章の追加
  - ※指摘「堺地域会議」  
学校開放を推進するためには、施設開放に対応している校舎への改修が必要である。

## (5) 堺地域(小山小学校・小山ヶ丘小学校区)

## ①地域の現状について

・保護者、学校、地域が子どものことを温かく見守っており、密着している地域である。

・公園や広場はいくつかある。幼児を連れてきた親子はいるが、小学生が遊んでいる姿を見かけることが少ない。公園は、どこもボール遊び禁止という注意書きがあり、子どもの遊びを過剰に抑制している。ただ危険だからと、理由を説明されることなく抑えつけられている。

・不審者事件が続発しており、外で遊ばせるのが不安だ。学校に関しても、保護者側から放課後すぐ帰宅させて欲しいという声が上がっている。

・見守り隊をはじめ、無償で活動している大人が大勢いる。園庭開放を行っている幼稚園もある。自己責任、保護者の方の責任ということで契約書を書いてもらい、同意を得ているため、賠償責任等を軽減するという工夫をしている。責任の問題という壁があり、自ら動くことは難しいが、要請があればいつでも集まる大人はいる。

・中学生と高校生の「リーダーズ」が小さな子ども達の面倒を見るという取り組みを行っている。

~~・大人同士のコミュニケーションができていないように感じる。これでは子どもは育たない。相談できる身内や親のネットワークがないため、子育ての悩みを抱え込んでいる人が多く、養育力の低下が見られる場合や心が病んでいるケースもある。自分の子どものことばかりを考えている親、クレームを言う親が多い。何か言われるのを恐れて、自分の子どもだけは注意するが一緒に遊んでいた子どものことは注意できない。責任追及の風潮があり、消極的な姿勢を作ってしまう。また、批判や要望は出すが、子どものために働く人、協力する人は少ないという傾向がある。~~

・最近の子どもは、中学生になった途端に年下の子どもとは遊ばなくなる。小学校と中学校が遠くなった。また、子ども達は塾や習い事に通っており、時間に追われた生活をしているように思われる。

## ②意見・アイデア

・新しい施設を作るのも良いが、学校や保育園など、既存の施設を開放するような方法があると良い。責任の所在はその場所と切り離し、利用者が自己責任の上で遊ぶ。

・年齢によって遊び方が変わり、危険な面も変化するため、乳幼児から青少年までみんなが遊べる場所が安全とはなりえない。公園ごとに対象年齢や用途をある程度限定したほうが安全性も確保できると思う。

・家族だけで子どもを育てるのではなく、地域住民が互いに地域の子どもを守ろう、育てようという心がけを持ち、少しでも外に出る時間を作って欲しい。思いついた時に庭先から通りの様子を伺うなど、負担にならない程度に行うことによって、子どもを見守る目が出来るし、交流が生まれるきっかけにもなる。

・危険から子ども達を守る対策は取られるべきであるが、子どもの遊び道具や環境を危険だからと取り除くことは結果として子どもにとっても良くないのではないか。遊びの中でケガをすることで学ぶこともあると思う。

・子ども達は遊び場を用意しても遊び方を知らない。遊び方を教えてくれるボランティアを地域の大人、特に退職した人や学生から集うと良い。子ども達と指導者、そして子ども達を見守り指導者を支える地域の力といった関係性が求められる。ボランティアは市が召集を行い派遣するという形をとれば手間はかかるがコストを抑